

令和4年度 全国学力学習状況調査の分析



千歳市立祝梅小学校

保護者の皆さまへ

千歳市立祝梅小学校
校長 岩崎 愛彦

令和4年度全国学力・学習状況調査の自校分析及び改善策について（お知らせ）

晩秋の候、保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

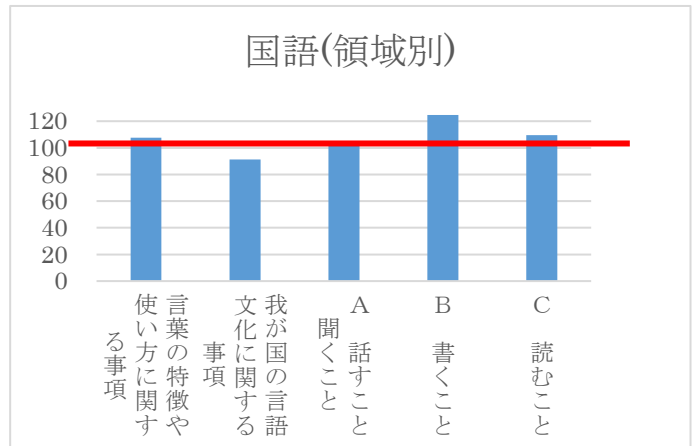
さて、今年度の全国学力・学習状況調査を自校で分析したもの、その改善策等についてお知らせいたします。つきましては、これらの課題改善に努め、児童に確かな学力、生きる力を身につけさせたいと考えておりますので、今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします

1. 教科に関する調査結果

※青字は全国平均を上回っているもの、赤字は下回っているものです。

国語

右のグラフは国語を領域別に表し、全国の平均正答率を100とした時の本校の正答率との関係を示しています。「我が国の言語文化に関する事項」以外は、ほぼ全国平均程度または超える結果となりました。



【国語の分類：思考力・判断力・表現力における各区分の結果】

話すこと・聞くこと

この区分の正答率は、全国や全道と比べてもほぼ同様となっています。今回は、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめことができるか」という問題です。つまり、今後も**互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを広げたり、まとめたりすることが大切になります。**

読むこと

この内容は、平均正答率は、全国・全道と比べても高い結果となりました。今回は、「物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係に着目して、物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすることができるか」という問題です。そして、今回の「読むこと」が設定された全ての問題において全国平均正答率を上回る結果となりました。物語などを読む際には、「構造と内容の把握」「精査・解釈」に関する指導事項の系統を踏まえて指導することが重要となります。今後も「構造と内容の把握」でいうと、**1・2学年では場面の様子や登場人物の行動などを、3・4学年では登場人物の行動や気持ち、5・6学年では登場人物の相互関係や心情を捉えられるようにすること。**「精査・解釈」でいうと、**1・2学年では登場人物の行動を、3・4学年では登場人物の気持ちの変化や性格、背景を具体的に想像したり、5・6学年では人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが大切であると考えられます。**

書くこと

「書くこと」については、全国平均正答率に対して、相当高い結果となりました。今回は、「文章全体の構成に着目して文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけたりすることができるか」という問題でしたが、「文章全体の構成や書き表し方に着目して文や文章を整える」という問題では、全国平均正答率よりも高い数値となりました。ただ正答率は、区分の中で最も低く、やはり全国的にも苦手な区分であると考えられます。今後も、**読み手に自分の考えを明確に伝えるために、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整える取組を継続**していく取組が大切であると考えます。

【国語の分類：知識および技能における各区分の結果】

言葉の特徴や使い方に関する事項

本校の結果は全国平均正答率と比べて高い結果となりました。ここでは、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができていることが分かります。しかしながら、「話し言葉と書き言葉の違いを理解しているか」の問題では、全国平均正答率と比べると下回っていました。話し言葉では、誤解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるように指導することが必要となります。今後しっかりと取り組んでいきたいところです。

我が国の言語文化に関する事項

この区分については全国平均正答率と比べて低い結果となりました。ここでは、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかがわかります。今回は、手紙を書き直す際に、相手の読みやすさを考え、行の中心に文字の中心をそろえて書いていることを捉えることが求められていました。読みやすい文や文章を書くためには、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを取り組んでいきたいところです。

今回の国語の問題で本校児童が「できなかった問題」「よくできた問題」について紹介しますのでご覧ください。

3. 二＜思考・判断・表現＞「できなかった問題」

学級での話し合いで出した文章について文章の良いところを見つけ、条件に合わせて書くという問いです。

3072	みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、		
3072			

四 岡さんは、「話し合いの様子の一部」の [] で、「ごみ拾い」か「花植え」かのごじらかを選んでいる様子が見えます。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。
(条件)
○ 「ごみ拾い」か「花植え」かのごじらかを選び、その問題点についての解決方法を考え書きましょう。
○ 「話し合いの様子の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。
※ 本文の添削用紙は書き直し用のため、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。◎の印から書きましょう。どちらか一方で書き直ししないで、捨てる書きましょう。

正答率が低かった問題です。
正答率 祝梅小 47.4%
無解答率 祝梅小 10.5%

【正答例】
わたしの文章のよさは、今年度ががんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いて、運動委員として進めたい新たな活動を最後のだん落に具体的に書いたりしているところです。

二 鳥谷さんは、川口さんと「文章二」を読み合い、感想を伝え合いました。次の「伝え合いの様子の一部」をよく読み、あとの問いに答えましょう。
【伝え合いの様子の一部】
鳥谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わったかな。
川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもとにしているからだね。
鳥谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。
川口さん 最後の段落がいいね。なぜかという、最初の段落の内容をより具体的に書いてあるから、今年がんばろうとしていることがくわしく伝わってきたよ。
鳥谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。
（伝え合いが続く）



やはり、条件に合わせて文章を書くという問題が苦手なようです。条件をよく確認する習慣、文章を書く練習が必要となります。主語・述語がはっきりした短い文で、「書くこと」への抵抗を少なくしつつ、少しずつ量を増やしたり条件を付けてわえたりしていく取組をしていきます。

1. 三<思考・判断・表現>「よくできた問題」

話し合いの様子の一部で、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの原因を捉えることができるかどうかをみる問題でした。

正答率が高かった問題です。
正答率 祝梅小 86.8%
無解答率 祝梅小 0.0%

【正答】
3. ペンキをぬり直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由

1 岡さんの学級では、地域のためにできることについて話し合うことになりました。岡さんのグループでは、学校の近くにある公園をきれいにすることについて話し合っています。次は、そのときの「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

岡さん 学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生のころから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいか考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん 私は、公園に行くとき、おかしなふくろやペットボトルがいつも落ちていることが気になります。そこで、ごみを拾うきかがあると思います。ア「きかい」というのは、ロボットのことではなく、活動する時間のことです。

山下さん 公園のごみを拾うことは、すぐにできるのでよいと思います。でも、続けることは難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もっとたくさんのお花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

谷原さん 確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかになり、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。

山下さん その点については、もう少し考えていきたいと思っています。

前田さん 私は、公園の遊具のペンキをぬり直したいと思っています。

中村さん ウどうして、公園の遊具のペンキをぬり直すことが必要なのですか。

前田さん 公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて、どれも暗い感じがします。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るい感じにするために赤色や黄色のペンキで、ぜひぬり直したいと思っています。

中村さん なるほど、いいアイデアですね。ペンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。

岡さん こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。

中村さん 今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて「メモ」をしてみました。

岡さん 私は、公園が明るくなるので、ペンキをぬり直すことがよいと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人に相談するとよいと思います。

みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、

5 (話し合いが続く) 5

アイデア	○よい点	△問題点
ごみ拾い	○ごみがなくなる	
花植え	△続けることがむずかしい	
ペンキぬり	○はなやかになる	△世話を続けることがむずかしい
	△明るくなる	△できるかどうかは分からない

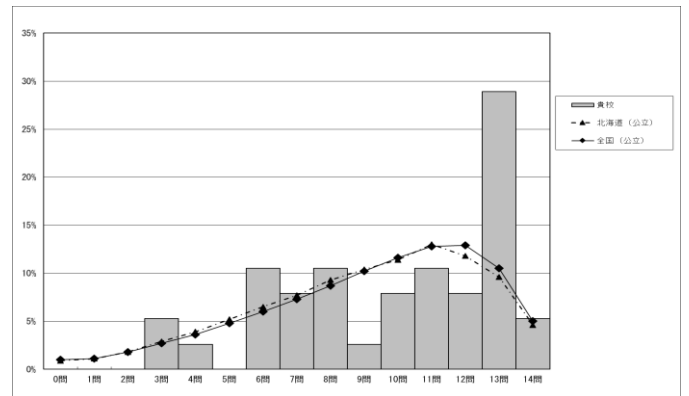
三 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんの発言に対して、——部のように質問し、知りたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ペンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由
- 2 ペンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由
- 3 ペンキをぬり直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由
- 4 ペンキをぬり直すことが、ごみのない公園になることにつながる理由

話し合いでは異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で、自分の考えを広げたりまとめたりする力が大切になります。今回は、主人公が何を聞いたかったのかという話の中心を捉えることができたと考えられます。

【正答数の分布】

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）
棒グラフ～祝梅小

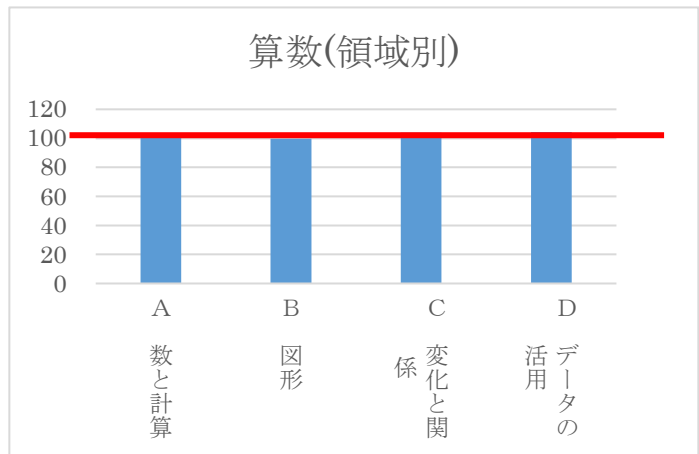


【国語…全体的な結果】

- ・国語の平均正答率は、全国平均正答率と比較する高い状況でした。
- ・十四問中十一〜十四問（つまり全体の8割以上）の正答数の割合は、相当高く、昨年度と比べても二倍以上となっています。
- ・十四問中〇〜四問（全体の三割以下）の正答数の割合は、昨年度と比べ、相当低くなっています。
- ・標準偏差つまり平均からの散らばり具合も全国全道に比べて、平均に近くなっています。

算数

右のグラフは国語と同じように算数を領域別に表し、全国の平均正答率を100とした時の本校の正答率を示しています。算数では、「図形」以外の領域は、全国平均とほぼ同様となっています。



【算数：領域別の結果】

数と計算

16 問中 6 問出題されました。全問で正答率が全国と比べるとほぼ同様となっていました。今回は「日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量関係に着目し、数の処理の仕方考えることができるか」という問題でした。算数で学習したことを基に、日常的に起こりそうな課題を解決できるかどうかを試されています。今回は、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述ができるかどうかの問題が全国平均正答率を大きく下回る結果となりました。問題場面の数量関係から、除法が用いられる場面であることを判断すること、その計算の課程で四捨五入や切り捨てなどの数の処理の仕方ができることなどが求められていました。今後も、除法に限らず、**四則計算や基礎・基本の確実な習得**などが大切であると考えられます。

図形

16 問中 4 問出題されました。全問で正答率は全国と同様でした。今回は「図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりすることができるか」という問題でした。この中で、「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述できるか」という問題と、「示された作図を作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し平行四辺形であることを判断できるか」という問題は、全国平均正答率より下回っていました。今後の図形の学習では、図形の意味の理解や図形の性質を確かめられるようにするため、**図形に関わる数学的活動を通して、知識・技能を身につける**ことが大切であると考えます。

変化と関係

16 問中 4 問出題されました。全問で正答率は全国と比べるとほぼ同様となっていました。今回は「問題場面の数量関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や伴って変わる二つの数量関係について考察できるか」という問題でした。中でも、「伴って変わる二つの数量関係が比例の関係であることを用いて未知の数量の求め方と答えを記述できるか」の問題については、全国平均正答率よりも大きく下回っていました。今後は、**日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を表現したりすることができるようにすることが大切である**と考えます。

データの活用

16 問中 5 問出題されました。全問で正答率は全国と比べるとほぼ同様となっていました。今回は「日常生活の問題を解決するために、目的に応じて表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察できるか」という問題でした。今後は、**表の意味、グラフの特徴を理解し、目的に応じて、表やグラフに表したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりすることができるようにすることが大切である**と考えます。

今回の算数の問題で本校児童が「できなかった問題」「よくできた問題」について紹介しますのでご覧ください。

2. (3) <C変化と関係> 「できなかった問題」

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物500mlを2人で分けると等しく分けると1人分は250mlになります。

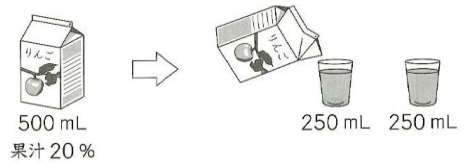
250mlの飲み物にふくまれている果汁の割合についてまとめた時、に当てはまる文を選択する問題です。

250mlは、500mlの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき ㉠

正答率が低かった問題です。
正答率 祝梅小 31.6%
無解答率 祝梅小 0.0%

【正答】
3. 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、 ㉠

上の㉠にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

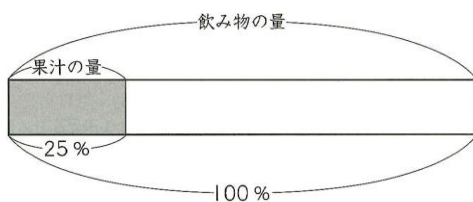
- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

苦手な子が多い割合の問題です。具体的な場面を考えながら理解できるように、図や数直線等で表現できるようになる必要があります。教科書に出てくる基本問題を確実に解けるようにしていきたいと思います。

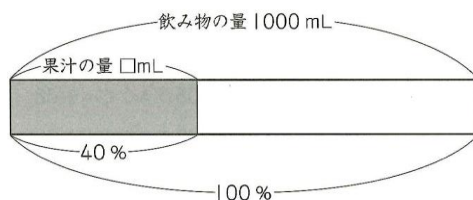
2

果汁入りの飲み物について考えます。

(1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。



(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000mLには、果汁が何mL入っていますか。答えを書きましょう。



4. (2) <B 図形> 「よくできた問題」

コンピュータを用いて、正方形を作図するプログラムの一部をかえて、長方形のものにするために空欄に数値を入れ、プログラムを完成させる問題です。

正答率が高かった問題です。

正答率 祝梅小 86.6%
無解答率 祝梅小 2.6%

【正答】
ア 3
イ 5

4

コンピュータは、いろいろな命令を順序よく組み合わせて動かすことができます。この命令の組み合わせを「プログラム」といいます。

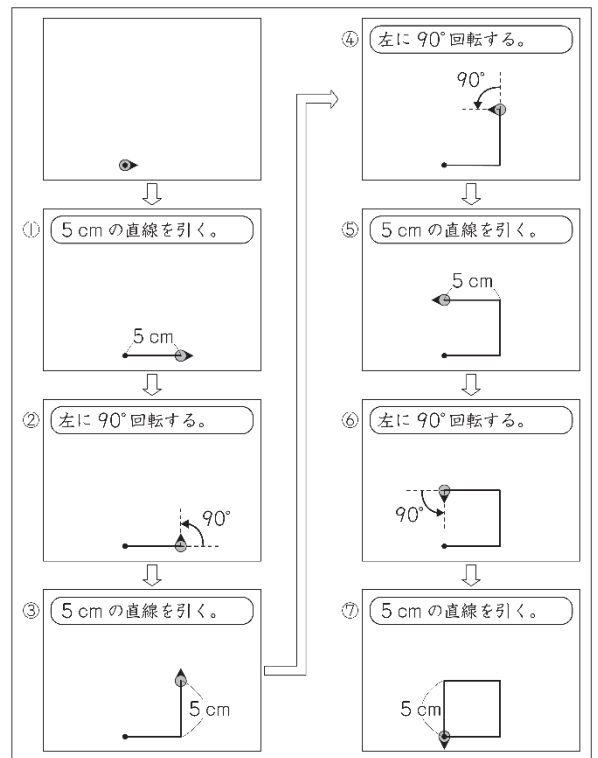
はなこさんたちは、プログラムをつくり、いろいろな図形をかこうとしています。



まず、正方形をかきましょう。正方形は、4つの角が直角で、4つの辺の長さが等しい四角形ですね。

1辺が5 cmの正方形をかくために、正方形のプログラムをつくりました。このプログラムを実行すると、右のように、スタート位置(●)から命令ごとに、●が➤の方向に進みながら直線を引いたり、矢印(↶)の向きに回転したりして、正方形をかくことができます。

正方形のプログラム



(2) 次に、ひろとさんは、正方形のプログラムの一部を変えて、縦3 cm、横5 cmの長方形をかくために、下のプログラムをつくりました。

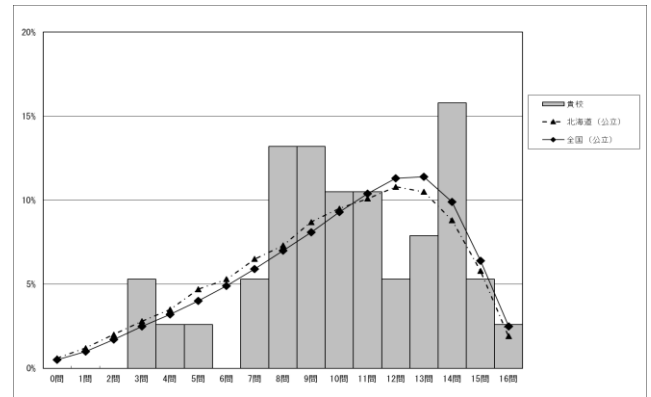
長方形のプログラム



図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりすることができるかどうかを見る問題でした。今回は長方形を構成する要素に着目し、その意味や性質、構成の仕方を理解している児童が9割近くいました。今後も様々な図形についての基礎・基本をしっかりと身につけていきたいと思ひます。

【正答数の分布】

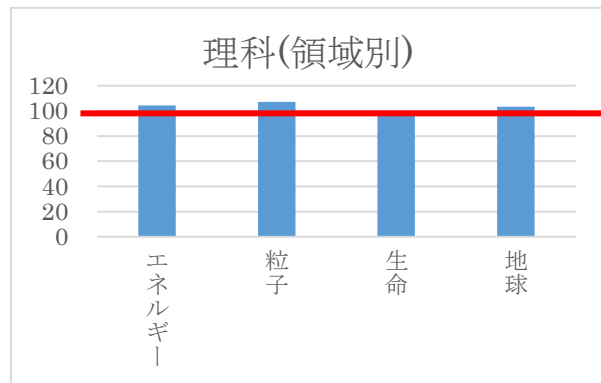
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）
棒グラフ～祝梅小



【算数…全体的な結果】
 ・算数の平均正答率は、全国平均正答率と比較するとほぼ同様でした。
 ・十六問中十三〜十六問（全体の八割以上）の正答数の割合は、ほぼ同様となっています。
 ・十六問中〇〜五問（全体の三割以下）の正答数の割合は、昨年度と比較して、ほぼ同様となっています。
 ・標準偏差については、全国全道と比べて平均からの散らばりが小さく、より平均に近づいています。

理科

右のグラフは国語や算数と同じように理科を領域別に表し、全国の平均正答率を100とした時の本校の正答率を示しています。理科では、「生命」以外の領域は全国平均と比べ、ほぼ同様となっています。



【理科：領域別の結果】

エネルギー

17問中4問出題されました。全問で正答率が全国と比べると若干上回っていました。今回は「日光は直進することを理解しているかどうか」、「問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の課程や得られた結果を適切に記録しているかどうか」、「自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えを持つことができ、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうか」という問題でした。今後も**習得した知識を、次の学習や生活に生かすことができるようにすることの重要性について意識**して授業改善を進めていくことが大切であると考えます。

粒子

17問中5問出題されました。全問で正答率は全国と比べるとやや高くなっていました。今回は「メスシリンダーという器具を理解し、メスシリンダーの正しい扱い方を身につけているかどうか」、「自分で発想した予想と、実験結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えを持つことができるかどうか」、「自然の事物・事象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうか」という問題でした。今後も、児童同士が話し合う中で、**比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気付きを基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見出していくような場面を設定することや、観察、実験などの方法を具体的に見通そうとすることを価値づけることの重要性について意識**して授業改善していく必要があると考えられます。

生命

17 問中 5 問出題されました。全問で正答率は全国平均と比べるとほぼ同様という結果となりました。今回は「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができたり、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できたりするかどうか」という問題でした。今後は、**記録の整理の仕方を工夫して、互いの結果を比較しやすくする**よう促したり、**意見交換の場**を設定したりして、**児童が他者の考えや意見を受け入れ、様々な視点から自分の考えを柔軟に見直し、その妥当性を検討できるようにすることの重要性**について意識して授業改善していく必要があると考えられます。

地球

17 問中 5 問出題されました。全問で正答率は全国と比べるとほぼ同様となりました。今回は「観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つことができるかどうか」、「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができるかどうか」、「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析、解釈し、自分の考えを持つことができるかどうか」、「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうか」という問題でした。今後も、**観察、実験などの結果を分析して解釈し、自分の考えをもつことができるようにするために、問題を把握することや既習の内容や生活体験と関連付けることができるようにすることで、問題に正対した結論を導き出すことを意識**して授業改善していく必要があると考えます。

今回の理科の問題で本校児童が「できなかった問題」「よくできた問題」について紹介しますのでご覧ください。

3. (1) <A物質・エネルギー> 「できなかった問題」

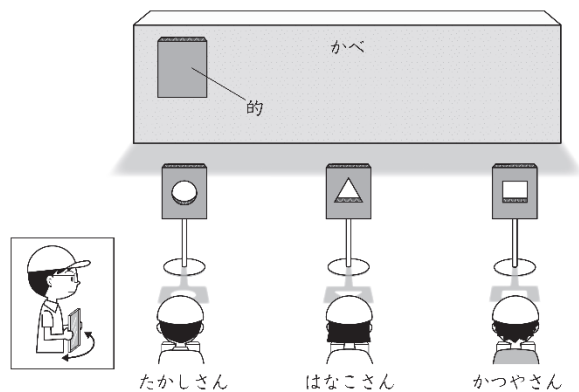
図の位置から鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返し、途中の型を切り抜かれた段ボールの板にあてた時、壁の左側にある的に三角形の光を当てることができたのはだれかを問う問題です。

正答率が低かった問題です。
正答率 祝梅小 26.3%
無解答率 祝梅小 0.0%

【正答】
3. かつやさん

3

たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、**的に**あてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある**的に、三角形の光**をあてることができるのはだれですか。下の **1** から **4** までの中から **1** つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

鏡を操作して反射させた日光を、光の性質を基に反射させた日光の進み方として考えさせる問題で、本校は全国平均正答率と比べてほぼ同様となりました。まずは、日光は直進することを理解していることが求められます。習得した知識を次の学習や生活などに生かすことができるようにすることの重要性について意識して授業改善していきます。

2. (1) <A物質・エネルギー> 「よくできた問題」

「砂糖水や食塩水がすべて凍る温度は水がすべて凍る温度より低いかどうか」という問題を解決のための実験の器具の名前に関する問題です。

正答率が高かった問題です。

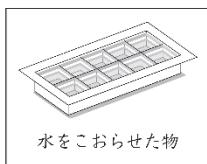
正答率 祝梅小 94.7%

無解答率 祝梅小 2.6%

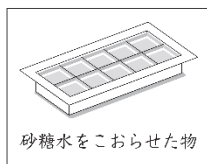
**【正答】
メスシリンダー**

2

たろうさんたちは、紅茶を冷やしたり、あまくしたりして飲むために、水と砂糖水を冷とう庫でこおらせることにしました。



水をこおらせた物



砂糖水をこおらせた物



水が先にこおって、砂糖水は、こおるのに時間がかかったよ。砂糖水は、水よりこおる温度が低いかな。調べてみたいな。

砂糖水だけでなく、食塩水も調べてみたいね。



たろうさんたちは、【問題】を見つけたので、調べることにしました。

【問題】

砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。



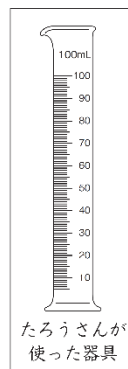
砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、砂糖水も食塩水も水と同じ0℃で、すべてこおると思うよ。

実験してみよう。



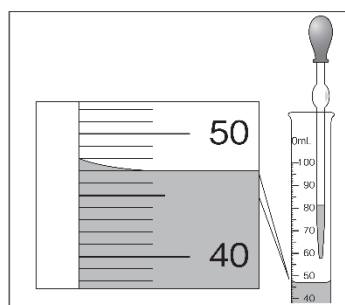
(1) たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるために、水50 mLを右のような器具を使ってはかりとることにしました。

たろうさんが使った器具の名前を書きましょう。



たろうさんが使った器具

(2) (1)の器具に、次の図のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50 mLの水をはかりとるためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

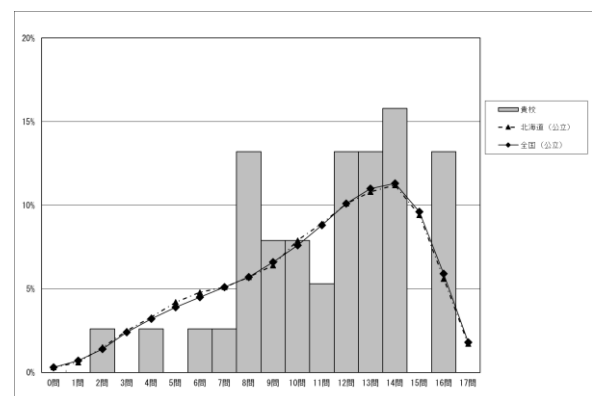


- 1 2 mL
- 2 3 mL
- 3 4 mL
- 4 6 mL

砂糖水と食塩水をつくるために、水をはかり取る時に、一定量の水の体積をはかりとる器具の名称について問う問題です。この問題は、全国平均正答率と比べると、本校の正答率は大きく上回る結果となりました。器具の名称を確認し、それを使用する場面を設定するなど器具や機器などの使用目的と操作の仕方などを理解すること、それらを踏まえ、定性と定量といった視点で物事を捉え、目的に応じた実験を行い、知識や技能を高めながら、問題を解決していくことについて意識してさらなる授業改善に取り組みます。

【正答数の分布】

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）
棒グラフ～祝梅小



【理科…全体的な結果】

・理科の平均正答率は、全国平均正答率と比較すると、ほぼ同様という結果になりました。

・十七問中十三〜十七問（全体の八割以上）の正答数の割合は、全国と比べるとほぼ同様という結果になりました。

・十七問中〇〜五問（全体の三割以下）の正答数の割合は、全国平均と比べると、低い結果となりました。

・標準偏差については、全国全道と比べて平均からの散らばりが小さく、より平均に近づいています。

2. 児童質問紙より

(1) 特徴的な結果

毎年、6年生の全国学力・学習状況調査では、試験の後に児童質問紙があり、児童の生活習慣に関する調査も行っています。今年度の状況について特徴的な部分をお知らせします。(△の項目には、改善策を示すアルファベットも記載しています)

- 「自分で計画を立ててよく勉強している児童」は、全国平均と比べほぼ同様ですが少し多くなっています。
- 「朝食は、毎日よく食べている児童」は全国平均よりは低くなっていますが、「どちらかといえば食べている児童」を加えると全員となり、全国平均を超える状況です。
- △ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考えている児童」は多く9割近くとなっていますが、1割の児童は「いじめ」について迷った判断をしています。→G
- △ 「国語や算数の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役立つと考えている児童」が国語は全国平均を下回り、算数は上回る状況でした。しかしながら、「国語も算数も勉強が好きな児童」の割合は、全国平均を上回っています。児童にとって、より楽しく、わかりやすい授業へのさらなる工夫改善に今後も継続して努めていきます。→ABCDEF
- △ 自分にはよいとことがあるとはっきりと答えられる児童は3割に満たない状況にあり、全国平均よりも若干低い値になっています。→G
- △ 読むことの大切さが伝えられている新聞についてですが、全国的にも少ないが、本校も読んでいる昨年度よりも少なくなっています。今後もその必要性や触れる機会が多くなるよう工夫改善していきます。→ABC

(2) 具体的な改善策について

A. 日本語指導の大切さを職員全員で共有する【教務部】

- ①主述の整った文を書かせます。
- ②文章の構成を意識した文章作りや読み取りをさせます。
- ③文章の要旨を理解したり、伝えたいことが明確な文章を作ったりさせます。
- ④既習の漢字を日常使用する中で定着させます。

以上の観点で、添削指導を適宜行い、言語活動の基礎を整えます。

添削場面例：「社会科授業の今日のまとめを、二文でまとめる」「総合的な学習の時間でポスターを作成するときの文章」「児童会ポスターやプリント」など

B. 「新聞」を学びに利用する【校内学力向上委員会】

- ①高学年フロアの掲示板に、新聞の記事を常時掲示・更新し、新聞が自然に目に飛び込む環境をつくります。
- ②4～6年を対象に、新聞の「天声こども語」のタイトル付けに取り組みせ、タイトル付けがしっかりできるようになれば、文章の意味をつかむ力、読み解く力がつき、今後の国語の必要な力を見に付けるためにも有効であると考えます。

C. 「自学をととのえる」強化週間を実施する【教務部】

- ①自学の習慣化をめざします。
 - ②今までの自学の取り組みを振り返り、さらなる意欲化を図ります。
 - ③自学に集中して取り組める期間を設定します。
実施期間は、チャレンジテストに合わせて取り組みます。
 - ◎重点目標…ノートに日付、学習の始まりと終わりの時刻、課題、まとめ(振り返り)を書く。
第1期(チャレンジテスト6月21日～)・・・6/21～7/1
 - ◎重点目標…学年+10分の時間を意識して取り組む
第2期(チャレンジテスト11月21日～)・・・11/14～11/25
- 実施方法
- 初日 今までの取組を振り返る。(学習時間・内容など)【自学提出人数チェック】
 - 強化期間中 自学をチェック→素晴らしい取組ノートを紹介(その場、お便りなど)
 - 期間終了 【自学提出人数チェック】
 - ※①開始時 ②終了時 ③終了から2週間後 ④夏休み前の4回

D. 「わかる・楽しい授業」への授業改善を図る


(ICT 機器活用)校内研究の取り組み【研究部】

研究主題「情報活用能力を高めながら学ぶ子どもの育成」

～ICT 機器を用いた個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けて～

○ICT 機器活用研修・ブロック実践交流会

- ・教師が情報機器の扱いに熟達し、計画的に活用の場面を設定することで、児童の情報機器を適切に扱う力が育てていきます。
- ・情報機器を用いた指導法を教科横断的に取り入れることで、個別最適で協働的な学びの場を生み出すことができると考えます。

目指す子ども  情報機器を適切に活用し、実態にあった個別最適な学びを行う子ども
情報機器を自らの思考・表現に生かし、積極的に協働的な学びをする子ども
このような子どもの育成につながると考えて取り組んでいきます。

<校内研究課題 2年次の1年目>

E. 「読書」を児童の定着させる取組を推進する【文化部】

- ①定期的に「読書週間」を実施し、本に親しむ時間を確保していきます。
- ②PTA「パステル」による読み聞かせや「クローバー」による図書の本の森の環境整備を継続していきます。
- ③国語などの授業で利用したりすることを推進してきます。
- ④図書館司書によるブックトークにより関心を高めます。

F. 学習規律の徹底・定着を図る【教務部】

『2022年度版 祝梅小を「ととのえる」』の完全な実行を目指します。

- ・学習規律を徹底させ、安心して落ち着いて学習できる教室環境をつくっています。
- ・学習習慣を形成するため、宿題や自学ノートの取組を推進し、家庭への啓発、児童の家庭学習への意欲づけを継続しています。
- ・学習規律の徹底(立腰、話し方・聞き方等) →年間3回の自己評価・改善
- ・教室環境の整備(整理整頓、掲示物等) →年間3回の自己評価・改善
- ・家庭学習の習慣化(学年×10分+10分)

G. 一人一人を大切にした学級経営の充実を図る 【教務部】

- ・「ルール」と「リレーション」の関係を重視した学級経営を図っていきます。
- ・児童の成就感、達成感をもつことができるように、多様な活動の場を設定していきます。
- ・児童と教師、児童同士の共感的な人間関係を構築し、いじめや不登校のない学年、学級づくりをしていきます。